



平成 24 年 2 月 28 日

独立行政法人国立がん研究センター

「もしも、がんが再発したら」出版と全国への見本版配布

国立がん研究センターがん対策情報センターでは、昨年末に出版となった「患者必携 がんになったら手にとるガイド」を作成し、がんの病気や治療についての情報だけでなく、心のケア、療養生活やお金、支援制度など患者さんにとって必要な情報について広く情報を普及につとめてまいりました。

このたび、再発に直面した方に信頼できる情報をわかりやすく提供し、治療や生き方を決めていく助けとなることを目的として「もしも、がんが再発したら [患者必携] 本人と家族に伝えたいこと」を作成しました。

○全国書店等での販売と「がん情報サービス」での PDF が公開されます。

3 月上旬より全国の書店等にて販売が開始され、3 月 5 日（月）よりがん情報サービス (<http://ganjoho.jp>) にて PDF を公開いたします。

http://ganjoho.jp/public/qa_links/hikkei/saihatsu.html (3 月 5 日公開)

○全国がん診療連携拠点病院等、約 1,000 箇所計 80,000 冊の配布いたします。

全国のがん診療連携拠点病院 388 施設、都道府県より情報提供いただいた医療機関 429 施設、都道府県がん対策主管課等約 1,000 カ所に見本版を合計 80,000 冊配布いたします。見本版をお送りした機関については下記ウェブサイトをご覧ください。

http://ganjoho.jp/hospital/consultation/info_saihatsu.html (2 月 28 日公開)

(資料 2. 「見本版」送付予定機関)

○患者会・患者支援団体の皆様への提供も開始します。

がんにかかわる患者会や患者支援団体の皆さまに、見本版をお送りいたします。広く患者、家族、市民の方々に、がんの情報普及にご協力いただける見本版をご希望の皆さまには、「がん情報サービス」内の応募要項をご確認の上、ご応募くださいますようお願いいたします。

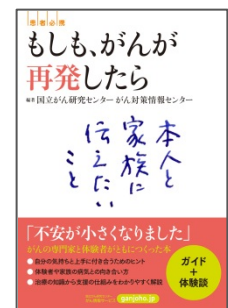
<http://ganjoho.jp/hikkei/hikkei09.html> (3 月 5 日公開)

(資料 3. 患者会・支援団体用「見本版」応募方法のご案内)

○がんの再発を経験された当事者と医療専門家がともに作り上げた本です。

再発に関する情報（冊子）については、患者必携「がんになったら手にとるガイド」作成当初から、「がんになったときは大変、でも、再発したときはもっと大変。ぜひ再発したときの情報をとりまとめた冊子をつくってほしい」という声が多数あがっていました。

2009 年秋、この課題に取り組むことになった研究班が、がん対策情報センター「患者・市民パネル」^{*1)} に呼びかけ、実際にご自身が再発がん、多重がんを経験された方を中心に 8



名が、がん専門医らとともにワーキンググループのメンバーとなりました。ワーキンググループでは、再発を告げられたときにどんな気持ちだったか、どんな支えが必要になるのか、体験者から伝えられることは何なのか、7回の検討会を重ねながら真剣に話し合いました。がんの再発という事態に直面しても、「希望を持って生きる」助けとなりたいという願いを込めてつくられた冊子です。

具体的な作成経過につきましては、下記ウェブサイトをご覧ください。

<http://ganjoho.jp/hikkei/hikkei08.html> (3月5日公開)

(資料4. 「もしも、がんが再発したら」作成経緯)

※1) がん対策情報センター「患者・市民パネル」については、ホームページ

<http://www.ncc.go.jp/jp/cis/panel/panel01.html> をご覧下さい。

○試作版「がんが再発したとき」の読者評価でも9割以上が“役に立つ情報があった”との回答がありました。

分析の途中経過ですが、研究班で作成して試作版について、がん体験者158名と医療者(主に相談員)258名に実際に本を読んだ評価では、がん体験者の97%(153名)、医療者の96%(248名)が「役に立った情報があった」と回答しました。また体験者がこの本を薦めたい人として、「がんの再発を告げられたばかりの人」だけでなく「再発をしていない人」「家族」にも読んでほしいとの回答が、約4割となっていました。

○今後の展開として、読む準備のできた方が“自ら手に取れるような環境づくり”をめざしていきます。

この「もしも、再発したら」の本は、多くの患者さんが必要とする一方で、情報を手にする準備のできていない状態では、非常に読むのがつらいということもあります。今後は、この本を読む準備のできた方が、“自ら手に取れるような環境”をつくりつつ、必要とする方に情報が届くよう、書店にとどまらず、全国の図書館や医療福祉関係者等広く周知を促していく予定です。また点字版・音声版の「もしも、がんが再発したら」も準備中です。

「もしも、がんが再発したら」の構成

はじめに

がんの再発、私たちの体験

再発、転移とは

再発がんを治療する

痛みについて

体や心の不調に対処する

臨床試験に参加するには

未承認役について

保管代替療法に興味を持ったときには

治療法をどう選ぶか

あなたの心に起こること

生きる意味を考えること

あなたを支えるいろいろなこと

家族およびあなたを支えてくれる方へ

用語集・索引・相談窓口等一覧

「もしも、がんが再発したら」出版の概要

「もしも、がんが再発したら」出版の概要

書名：(患者必携) もしも、がんが再発したら 本人と家族に伝えたいこと

発行：英治出版株式会社 (東京都渋谷区 代表取締役 原田英治)

〒150-0022 東京都渋谷区恵比寿南 1-9-12 ピトレスクビル 4F

<http://www.eijipress.co.jp/>

定価 750 円 取り扱い書店については上記にお問い合わせください。

「がんになったら手にとるガイド」および「がんに関する相談窓口」について

「がんになったら手にとるガイド」および「がんに関する相談窓口」について

*初めてがんと診断された方が必要とする情報をとりまとめた「がんになったら手にとるガイド」は、下記より出版され、全国の書店や病院売店等で販売されています。取り扱い書店については下記にお問い合わせください。

書名：『患者必携 がんになったら手にとるガイド』

発行：株式会社学研メディカル秀潤社 (東京都品川区 代表取締役 須摩春樹)

〒141-8414 東京都品川区西五反田 2-11-8

TEL:03-6431-1234

<http://gakken-mesh.co.jp/>

*がんに関する相談は、全国に388カ所ある、がん診療連携拠点病院のがん相談支援センターで、対面、電話などでお受けしております。

*『国立がん研究センター患者必携サポートセンター(0570-02-3410[ナビダイヤル])受付時間 平日[土日祝日を除く]の10時~15時』は、『患者必携』を必要とする方が適切に利用していくことができるよう、全国のがん診療連携拠点病院と連携し、がん患者の方々やそのご家族を支援する体制の構築を目指しています。

【参考】全国のがん診療連携拠点病院の相談支援センター

<http://hospdb.gan.joho.jp/kyotendb.nsf/fTopPage?OpenForm>

(国立がん研究センター がん情報サービス「病院を探す」より)

<報道担当・問い合わせ先>

(問い合わせ先)

独立行政法人 国立がん研究センター

がん対策情報センター がん情報提供研究部 研究員 八巻

〒104-0045 東京都中央区築地5-1-1

国立がん研究センターがん対策情報センター

がん情報サービス事務局 患者必携係

Tel: 03-3542-2511 (代表) 内線: 5686

E-mail: cyamaki@ncc.go.jp

(報道担当)

独立行政法人 国立がん研究センター広報室

Tel: 03-3542-2511 (内線 3764, 3765)

Fax: 03-3542-2545